

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)小牧市本庄物流倉庫	階数	地上4階
建設地	愛知県小牧市大字本庄字樋先144番1、144番2、144番3、144番4、144番5、145番、146番、147番	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	33人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,920時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2021年2月 予定	評価の実施日	2019年11月21日
敷地面積	3,208 m ²	作成者	大和ハウス工業株式会社愛知支店建築第一課建築士事務所(山本 透)
建築面積	1,515 m ²	確認日	2019年11月21日
延床面積	4,278 m ²	確認者	大和ハウス工業株式会社愛知支店建築第一課建築士事務所(山本 透)



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ BEE=1.0 C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	96%
③上記+②以外の	96%
④上記+	96%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境	温熱環境	光・視環境	空気質環境
N.A.	N.A.	N.A.	N.A.

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

機能性	耐用性	対応性
N.A.	3.1	3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.7

生物環境	まちなみ	地域性
1.0	2.0	2.0

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 2.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.6

建物外皮の	自然エネ	設備スチテ	効率的
N.A.	3.0	2.4	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

水資源	非再生材料の	汚染物質
3.4	3.0	3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

地球温暖化	地域環境	周辺環境
3.1	2.5	3.0

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.1</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部						建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体
		Q 建築物の環境品質												
Q1 室内環境														
1 音環境														
1.1 室内騒音レベル														3.0
1.2 遮音														
1 開口部遮音性能														
2 外壁遮音性能														
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														
1.3 吸音														
2 温熱環境														
2.1 室温制御														
1 室温														3.0
2 外皮性能														3.0
3ゾーン別制御性														3.0
2.2 湿度制御														3.0
2.3 空調方式														3.0
3 光・視環境														
3.1 屋光利用														
1 屋光率														3.0
2 方位別開口														
3 屋光利用設備														3.0
3.2 グレア対策														
1 屋光制御														5.0
3.3 照度														3.0
3.4 照明制御														3.0
4 空気質環境														
4.1 発生源対策														
1 化学汚染物質														3.0
4.2 換気														
1 換気量														3.0
2 自然換気性能														3.0
3 取り入れ外気への配慮														3.0
4.3 運用管理														
1 CO ₂ の監視														3.0
2 喫煙の制御														3.0
Q2 サービス性能														0.43
1 機能性														
1.1 機能性・使いやすさ														
1 広さ・収納性														3.0
2 高度情報通信設備対応														3.0
3 バリアフリー計画														3.0
1.2 心理性・快適性														
1 広さ感・景観 (天井高)														3.0
2 リフレッシュスペース														3.0
3 内装計画														3.0
1.3 維持管理														
1 維持管理に配慮した設計														3.0
2 維持管理用機能の確保														
2 耐用性・信頼性														0.5
2.1 耐震・免震・制震・制振														0.4
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0
2 免震・制震・制振性能														3.0
2.2 部品・部材の耐用年数														0.3
1 躯体材料の耐用年数														3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														5.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														5.0
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0
2.4 信頼性														0.1
1 空調・換気設備														3.0
2 給排水・衛生設備														3.0
3 電気設備														3.0
4 機械・配管支持方法														3.0
5 通信・情報設備														3.0

② 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ALC版 30年以上
 上位3種のうち2種以上にB以上を使用し、Eは不使用

3 対応性・更新性			0.4	3.4	0.48			-	-	3.4	
3.1 空間のゆとり		②	0.3	4.6	0.31			-	-		
1 階高のゆとり			工場用途単独の評価のためレベル5 壁長さ比率0.152		5.0	0.60			-	-	
2 空間の形状・自由さ					3.0	4.0	0.40			-	-
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31			-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38			-	-	
1 空調配管の更新性					3.0	0.17			-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17			-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11			-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11			-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22			-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22			-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57			-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出			独自③		1.0	0.30			-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		2.0	0.40			-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30			-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		2.0	0.50			-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50			-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	0.40			-	-	2.8	
LR1 エネルギー				-	0.40			-	-	2.6	
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-	-			-	-	-	
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.13			-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化			3.0	2.4	0.63			-	-	2.4	
4 効率的運用			0.2	3.0	0.25			-	-	3.0	
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00			-	-		
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50			-	-		
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50			-	-		
集合住宅の評価			-	-	-			-	-		
4.1 モニタリング			-	-	-			-	-		
4.2 運用管理体制			-	-	-			-	-		
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			-	-	3.2	
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15			-	-	3.4	
1.1 節水		節水こまに加えて省水型機器を用いている	3.0	4.0	0.40			-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60			-	-		
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67			-	-		
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33			-	-		
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.0	0.63			-	-	3.0	
2.1 材料使用量の削減		②		2.0	0.07			-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.25			-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			独自		3.0	0.21			-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自		1.0	0.21			-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-			-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	5.0	0.25			-	-		
再利用できるユニット部材を使用している								-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.6	0.22			-	-	3.6	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32			-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	4.0	0.68			-	-		
1 消火剤				-	-			-	-		
2 発泡剤(断熱材等)				5.0	0.50			-	-		
3 冷媒			3.0	3.0	0.50			-	-		
発泡剤を使用した断熱材を使用していない								-	-		
LR3 敷地外環境				-	0.30			-	-	2.8	
1 地球温暖化への配慮		①	LCCO2排出率96%	3.1	0.33			-	-	3.1	
2 地域環境への配慮			0.3	2.5	0.33			-	-	2.5	
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50			-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25			-	-		
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	-		
2 汚水処理負荷抑制		独自		3.0	0.25			-	-		
3 交通負荷抑制		独自	取り組み数4	5.0	0.25			-	-		
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			-	-		
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33			-	-	3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40			-	-		
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	-		
2 振動		独自		-	-			-	-		
3 悪臭				-	-			-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40			-	-		
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	-		
2 砂塵の抑制				3.0	-			-	-		
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	-		
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20			-	-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			-	-		
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	-		

重点項目スコアシート
(仮称)小牧市本庄物流倉庫

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.1	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{(評価点} \times \text{全体に対する重み)の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)小牧市本庄物流倉庫

計画上の配慮事項	
総合	居室の天井高さを2.7m以上確保し開放性に配慮した
Q1 室内環境	自然換気有効開口面積が床面積の1/30以上
Q2 サービス性能	執務室に対して十分なリフレッシュスペースを確保
Q3 室外環境(敷地内)	特に無し
LR1 エネルギー	BPI _m =0.70
LR2 資源・マテリアル	再利用できるユニット部材を使用している
LR3 敷地外環境	駐車場の利便性に配慮している
その他	特に無し